

平成 26 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

研究領域名	認知的インタラクシオンデザイン学：意思疎通のモデル論的理解と人工物設計への応用
領域代表者	植田 一博（東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・教授）
研究期間	平成 26 年度～平成 30 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、他者の行動を理解・予測するために必要とされ、状況に応じて変化する認知モデルである他者モデルを認知科学的に検討し、人工物の設計・構築のための認知的インタラクシオンデザイン学の確立を試みるものである。人対人、人対動物、人対ロボット等に共通する認知プロセスの解明は興味深く、社会の中での様々な応用としての成果も期待されることから、現代社会において重要な試みであると考えられる。</p> <p>研究組織は概ね妥当である。多岐にわたる機関・組織から、比較的若手の研究者が多く参加する構成となっていることが特長として挙げられる。また、共通の実験設備を用意し、研究者が共有して活用する試みも計画されており、研究を促進する工夫として評価できる。</p> <p>一方で、本計画研究で構築しようとする他者モデルについて、そのプロトタイプや輪郭が示されておらず、人工物設計への応用まで到達可能か懸念される。本領域の目的達成のために、各計画研究における研究の連携をより強化するための工夫が求められる。また、社会への応用という点では、より一層の具体的な計画が必要である。</p>